2 和歌山県

絵本のまち有田川 ～絵本が日常になる～

有田川町教育委員会　教育部社会教育課
文化情報班　班長　青石　賢治

有田川町について

有田川町は和歌山県の紀中地域に位置し、平成18年に旧吉備町、旧金屋町、旧清水町の3町が合併した町で、人口27000人弱、合併により面積351・84㎢で県下一面積の広い町となりました。有田みかんや、棚田百選にも選ばれたあらぎ島、日本一の生産高のぶどう山椒などが有名です。有田川町には、「本のあるカフェ」をコンセプトとした「有田川町地域交流センター」、児童書サービス中心の「金屋図書館」、絵本の原画展を開催している「ちいさな駅美術館」、学校図書室と一体化した「しみず図書室」そして「移動図書館コスモス号」これらすべてを一体化し「有田川ライブラリー」として運営を行っています。

有田川町地域交流センター

地域交流センターの建設

絵本による取り組みは、金屋図書館で合併前より行われており、本格的にまちづくりとして発展するきっかけとなったのが、平成21年4月にオープンした有田川町地域交流センターです。このセンターは、町民が気軽に利用できる文化情報拠点として建設され、屋内には図書コーナー、多目的ホール、喫茶コーナーがあり、屋外にはオープンテラスがあります。お茶を飲みながら本が読めるなど従来の図書館が持つイメージを覆した施設が住民に受け入れられ月1万人が来館される施設となり、この実績より図書資料費も、それまでの6倍の1200万円になりました。

タイムリーだった地域活性化交付金

金屋図書館では、段階に応じた子育て・読書支援を行い4ヶ月の赤ちゃんを対象にブックスタートとわらべうた教室、2歳～未就園児を対象に、ブックラザという造形遊びを行います。そして、よみきかせのおはなし会へ、その後は、小学校1～3年生の絵本の読み聞かせをしながらの工作教室（ブッククランド）4～6年生は（ブックカフェ）というブックトークの会をするなど、「絵本」を軸に事業を展開してきました。

金屋図書館でのブックスタートの様子

そんな中、図書館など光が十分に当てられてこなかった分野に対する地方の取り組みを支援する、住民生活に光をそそぐ交付金が平成22年度に創設され、これを使い電子図書館システムの導入、移動図書館の買い替え、「ちいさな駅美術館」の開館、「絵本コンクール」実

ちいさな駅美術館

施など、ここから、絵本が図書館の児童サービスから、町づくりとして急速に発展することとなりました。

目に見える「絵本のまちづくり」へ

こうした取り組みにより、県内外からは「絵本のまち」と評価されるようになってきましたが、町民に浸透しておらず、考えたのが目に見える絵本の町づくりでした。

そこで取り組んだのが「お化け屋敷」です。町内の古民家に一泊して絵本作家さんと触れ合うイベントがあったのですが、絵本作家の山本孝さんに監修のもと、お化け屋敷を行いました。この山本孝さんとの出会いから、冗談半分に「学校でするのも面白いね」と言っていたことが本当になり休校となった小学校を使って偕成社さんからでている絵本「学校なふしぎ」を実現させたお化け屋敷を開催することとなりました。昨年は8月の10日間ほどで町内外から3800人の来場者がありました。

絵本作家さんとのお化け屋敷打ち合わせ会議風景

これらの取り組みがもっと具体的に見えるよう、平成26年に「有田川町絵本まちづくりグランドデザイン」を策定しました。

「絵本で有田川町を発信」「絵本で育むひととまち」「絵本で交流促進」「絵本でコミュニティ形成」の4つの目標を設定、そのための20の具体的なプランが書かれています。

その一つとして、私鉄の廃線跡にできた自転車歩行者専用道路があるのですが、そこに残っている旧駅舎に絵本作家さんに描画していただき絵本のまちのシンボルロードにしようという計画です。また、この自転車歩行者専用道路沿いなどに、絵本を入れたミニ図書館「まちかど絵本館」を設置し住民と絵本を近づけるシステムや、「まちかど絵本箱」といって、町内のカフェや美容室などに絵本の箱を置き、お客さんに自由に見てもらい、借りたい人がいれば借りられるというものも設置しました。

旧駅舎へのペイント

住んでることを誇れる、笑顔あふれる絵本のまちの実現をめざして

また、「町づくり」は「人づくり」との考えから人材育成にも取り組んでいます。

JPIC（一般財団法人出版文化産業振興財団）に委託し、図書施設や保育所・小学校だけでなく、絵本館や絵本箱設置のお店などで読み聞かせを行える「絵本のまち有田川よみきかせ隊」、そういったボランティアを牽引してくれる知識をもった「絵本コンシェルジュ」を育成し、絵本の町づくりが行政だけでなく町民がまちづくりに参加できるように取り組んでいます。絵本作家のtuperatuperaさんにお願いして絵本のまちのロゴマークも製作しました。このロゴマークを使ったグッズなど製作中です。

絵本には、子どもだけでなく大人にも感性を磨き、心を豊かにする力があります。複雑に絡み合った現代社会の中で絵本のもたらす効果を最大限に利用するまちづくりをこれからも進めていきます。

有田川町絵本コンシェルジュ第１期生